

赤十字 NOW

千葉 | November 2014 Vol. 29

発行所 / 日本赤十字社千葉県支部 〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7 TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812



東日本大震災から
3年半…

被災地を 忘れない



東日本大震災から3年半を迎えた2014年夏。勝浦市赤十字奉仕団は、福島第一・第二原子力発電所からほど近い福島県富岡町を訪れ、当時住民であった方とともに、いまだに震災の爪あとの残る被災地を巡りました。

また、千葉県支部と千葉県立美術館の協働復興支援プロジェクト「夢つくり隊」が、2年ぶり2度目となる岩手県釜石市を訪問し、市内の子どもたちとともに100年後の街づくりワークショップを実施しました。

(2面に詳細記事)

CONTENTS November.2014 vol.29

2 わたしたちが見た
被災地のいまと未来
・勝浦市奉仕団 福島県富岡町を訪ねて
・夢つくり隊~まちづくりプロジェクト~

3 伝える、防災。
・清水高校 防災教育公開事業
・習志野市赤十字奉仕団
防災紙芝居上演会

4 救急法フェスタ
2014開催

5 青少年赤十字メンバー
代表がネパール訪問

6 お知らせ
・NHK海外たすけあい
・義援金・海外救援金の流れ

わたしたちが見た被災地のいまと未来

Part.1 勝浦市赤十字奉仕団視察研修～福島県富岡町を訪ねて～

勝浦市赤十字奉仕団(関野敬子委員長)は、7月16日(水)から17日(木)まで、平成26年度の視察研修として福島県富岡町を訪れました。福島第一・第二原子力発電所からほど近い富岡町にバスで向かい、同町で活動する「富岡町3.11を語る会」の田中美奈子さんの案内のもと、町内を見学。津波により十数メートル先まで駅舎が流されてしまったというJR富岡町駅前前でバスを降り、震災の爪あとが残る町内を巡りました。

放射線警戒区域となり、原則立入禁止となったこの地域に人影はなく、鉄骨を残すだけとなったビルや傾いたままの屋根、仰向けになったままの車など、震災から3年半が経過したいまも時が止まったような様子に涙を流す団員も…。関野委員長は、「放射線測定器の針の動きをみて、目に見えない危険を身を持って感じた。復興はまだまだ進んでいない。このような地域が存在することを忘れてはいけない」と研修を振り返ります。

また、参加した団員の方々からは、「行こうと思ってもなかなか行けない場所に来て、この光景を自分の目で見られたことは、とても貴重な経験になった」「赤十字奉仕団としての役割を再認識し、防災への知識を深め、それを広めていきたい」との声が聞かれました。



JR富岡駅前の様子。人影はなく、除染作業や復興作業に従事する人の姿が見られる程度。



今回の視察研修は、君津市で10ヶ月間避難生活を送られていた田中美奈子さん(写真中央)と君津市赤十字奉仕団との繋がりにより実現しました。

Part.2 夢づくり隊～まちづくりプロジェクト～ 子どもたちが描く100年後の釜石市とは？

美術のワークショップを通じた被災地の子どもたちの「こころのケア」を目的に、千葉県支部と千葉県立美術館が結成したプロジェクトチーム「夢づくり隊」が、8月5日(火)から8日(金)まで、2年ぶり2度目となる岩手県釜石市を訪問しました。今回の「夢づくり隊」では、より未来の復興に目を向けたプログラムとして、「100年後の釜石市をつくろう!」をテーマとしたワークショップを実施。

子どもたちは、港エリア・商業エリア・駅と博物館エリア・工場地帯エリアに分かれ、「100年後にあったらいいもの」「残したいもの」などを話し合い、「未来図マップ」を描いた後、ビルダーカードと廃ダンボールを素材にして、必要となる建物や乗り物などを制作しました。「海の中に街があれば、津波も怖くないよ」と、床いっぱい広げられたビルダーカードの海にマンションやビルを建設してみたり、魔法の杖で動く船を作ってみたり…子どもたちの想像力は無限大!暑さを忘れて制作活動に取り組み、夢いっぱいすてきな街が完成しました。

また、今回のワークショップには、青年赤十字奉仕団淑徳大学分団の学生と、同美術館のパートナー大学である千葉大学教育学部の学生が参加。学生たちが中心となってプログラムの進行や助言を行うことで、子どもたちとともに震災復興や地域再生の在り方を考える機会となりました。

学生リーダーとして参加した鈴木優理さん(青年赤十字奉仕団委員長)は、「協力してくれる人の輪を広げながら、これからも自分たちができる形で支援を続けていきたい」と意欲的に語ってくれました。



「未来図マップ」を作成。100年後の釜石市には何があるだろう？



「未来の釜石を作っていくのは、ここにいる皆さんです。すてきな街を作ってね」とファシリテーター岩瀬茜さん(千葉大学教育学部4年)より一言。

赤十字と気象庁の連携による高校生対象防災学習会

8月23日(土)
県立清水高校防災教育公開事業に協力

県立清水高等学校が取り組む「平成26年度実践的防災教育総合支援事業(命の大切さを考える防災教育公開事業)」の一環である防災学習会に協力しました。

この学習会は、今年3月に日本赤十字社が気象庁と締結した「防災教育の普及等の協力に関する協定」に基づき、千葉県支部と銚子地方気象台との協力により実施されたもので、同校生徒21名が参加しました。

災害の原因となり得る自然現象などについて学習し、災害現場で活動経験のある職員から実際の被災地や避難所の様子を聞いたほか、グループワークを通して、災害時に高校生として取り組める活動や活動を進める際に必要となる力などについて意見を交わしました。

スタッフからは参加生徒に対し、「共助」の視点から防災における自身の役割を認識し、当事者意識を持つこと、日頃から自分たちの周りのさまざまな問題に目を向け、解決のために必要な力を身につけることの重要性が強調され、参加者の今後の取り組みも期待される内容となりました。



状況認識やコミュニケーション、意思決定などをテーマとしたグループワークでは、参加者の積極的な発言が多く見られました。

伝える、防災。



紙芝居を通して、「もしものときにどうしたらいいか」を子どもたちに伝えました。



習志野市赤十字奉仕団が防災紙芝居を作成

10月10日(金)
みもみ幼稚園で上演会

習志野市赤十字奉仕団(田所喜美子委員長)は、10月10日(金)、学校法人飯生学園みもみ幼稚園(飯生和美委員長)において、防災に関する紙芝居上演会を実施しました。

同奉仕団では、市内の防災訓練に参加し炊き出しを行うなど、日頃から地域の防災活動に積極的に取り組んでおり、今回は、防災の大切さを子どもたちにも伝えたいという思いから、紙芝居を作成することを企画。団員たちで内容を話し合い、この活動に賛同した習志野市立第三中学校の美術部の生徒の皆さんに絵を描いてもらいました。

当日は、年長園児3クラス95人を対象に紙芝居を上演。子どもたちも集中して話を聞いている様子で、最後は「楽しかった!またきてねー!」との声も。飯生園長からは、「先生以外の人に紙芝居を読んでもらうことはあまりない機会なので、子どもたちにとっても良い経験になったと思う。地元の中学生在が協力した作品ということで、絵も可愛く、手作り感があって良かった」と感想を語っています。

田所委員長は、「東日本大震災のような地震は他人事ではないこと、そして、もしものときにどうすればいいかということ子どもたちにも伝えたい。子どもたちを引き込めるように練習を重ねたい」と話します。この活動は、みもみ幼稚園での上演会を皮切りに、市内の幼稚園・保育園で随時実施していきます。

いざという時に活かせる技術を競う! 赤十字救急法フェスタ2014

10月23日(水)、千葉県総合スポーツセンターにおいて千葉県赤十字救急法フェスタ実行委員会主催の「赤十字救急法フェスタ2014」が開催され、県内各地の赤十字地域奉仕団、特別奉仕団、青少年赤十字採用校などから61団体約1,500人が参加し、救急法の技術を競い合いました。

5人1組で三角巾による傷の手当・担架搬送や、山岳事故を想定した手当の技術を競い合う2種目を行い、特に優秀なチームには特別賞が授与されました。また、各種参加型のレクリエーションを実施し、会場には AEDを使った心肺蘇生やビニール袋でのカッパ作りなど、災害時に役立つ技術を体験できるコーナーも設けられ、楽しみながら、いざというときに活かせる救命や応急手当の知識と技術を高める一日となりました。



各チーム応援にも熱が入ります。



チームで力を合わせて、技術を競います。



審査員のスタッフもしっかりと手技をチェック

災害時に役立つ技術を学んでみませんか?

災害により被災された高齢者の避難生活を支えるために、高齢者の不安を軽減し、安全と健康を守るための生活支援の方法を学びます。

*受講費：152円（教材費、保険料の実費）

日程	時間	会場
平成 26 年 12 月 9 日 (火)	10:00 ~ 12:00	日本赤十字社千葉県支部
平成 27 年 2 月 5 日 (木)	10:00 ~ 12:00	日本赤十字社千葉県支部
平成 27 年 2 月 12 日 (木)	14:00 ~ 16:00	成田赤十字病院

【お申込み方法】

往復はがきに必要な事項【①講習会名 ②講習会日程 ③会場名 ④郵便番号・住所 ⑤氏名（ふりがな） ⑥電話番号※携帯電話でも可 ⑦生年月日（年齢）】をご記入のうえ、各会場までお申込みください。詳しくは、千葉県支部ホームページ（<http://www.chiba.jrc.or.jp/>）をご覧ください。

▼お申込み・お問合せ先

日本赤十字社千葉県支部 救護福祉課 健康安全係 〒260-8509 千葉市中央区千葉港 5-7 TEL:043-241-7531（代表）
成田赤十字病院 社会課 社会係 〒286-8523 成田市飯田町 90-1 TEL:0476-22-2311（代表）

その他にも、赤十字では、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、緊急時や災害時に人命を救う方法や、健康で安全に暮らすための知識と技術を広めるため、「救急法」「水上安全法」「幼児安全法」などの講習を開催しております。

講習会はどなたでもご参加いただけます。興味のある方は、ぜひ講習会をご受講ください。



千葉県支部ホームページで、各種講習会を紹介しているよ!

「一円玉募金」など 日々の活動とのつながりを学ぶ! 青少年赤十字メンバー 代表がネパール訪問

か、県内の青少年赤十字採用校(園)内で日頃から取り組んでいる「1円玉募金」が充てられています。

今回のプログラムでは、その支援対象校の生徒たちとの交流や現地の青少年赤十字メンバーとの意見交換を行ったほか、ネパール赤十字社などを表敬訪問したり、現地の歴史や文化に触れたりしました。

「私たちが集めた1円玉募金が筆記用具となって届けられているのを見て感動した。自分だけが知っているのはもったいないことばかりだったので、周りの人たちにも伝えていきたい」と語ってくれたのは、近藤優大さん(鎌ヶ谷市立第二中学校3年)。

加瀬瑞季さん(銚子市立銚子高等学校2年)は、「現地の JRCメンバーの地域を変えようとする行動力に衝撃を受けた。行進をしながら、手洗いやトイレなどの衛生面での習慣を訴えている姿を見て、私たちも地域と協力してできることを探していきたい」と、地域と連携した活動の必要性を強調していました。

また、豊田茉由さん(鎌ヶ谷市立第四中学校3年)は、帰国後、自身の中学校の始業式で派遣報告を行い、「ネパールの同世代の生徒たちの取り組みに大変刺激を受けた。私たちの学校の避難訓練でも、生徒による応急手当など実践的な内容を導入し、災害が起きた際には大人に頼るだけではなく、中学生としてできることを身につけていきたい」と、全校生徒に訴えました。

今回参加したメンバーは、派遣事業で得た経験や学校等における取り組みについて、今後もさまざまな機会に情報発信・提案を行っていく予定です。

団長として同行した鈴木吉久校長(鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校)は、「ネパールなどの途上国の現状を『大変な国だね』で終わらせるのではなく、自分に何ができるのかを考えられるような人になってほしい。青少年赤十字の『気づき、考え、実行する』という考えが深まる機会となれば…」と派遣を振り返りました。

青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」の一環として、県内の青少年赤十字中学生・高校生メンバー代表8人が、8月1日(金)から7日(木)までネパール連邦民主共和国を訪問しました。

日本赤十字社では、ネパールなどの子どもたちのための学習環境の整備や保健衛生の普及活動といった事業に、毎年1,200万円規模の資金援助を行っています。この資金は、一般の方々からの寄付のほか、



ネパール赤十字社を表敬訪問



現地の学校では、避難訓練の際に生徒がトリアージや応急手当を実施していました。



植樹を通して、現地の青少年赤十字メンバーと交流

ネパール赤十字社の 青少年赤十字メンバーを受け入れました!

千葉県支部では、日本赤十字社が行う青少年赤十字国際交流事業の一環として、10月24日(金)から30日(木)までネパール赤十字社の青少年赤十字メンバーであるラシーラさんとジーシーさんを受け入れました。

ネパールを訪問した派遣メンバーや県内の青少年赤十字メンバーと交流したり、義肢製作所や献血ルームなどを見学した二人は、「みんな親切で、とても楽しい時間を過ごせた。日本の赤十字の活動を知ることができてよかった」と感想を述べてくれました。



千葉県支部を訪問

銚子市立銚子高等学校のJRCメンバーと交流



「たすけあいを、忘れない。」 私たちが世界のためにできることを 12月1日～25日「NHK 海外たすけあい」

「海外たすけあい」とは

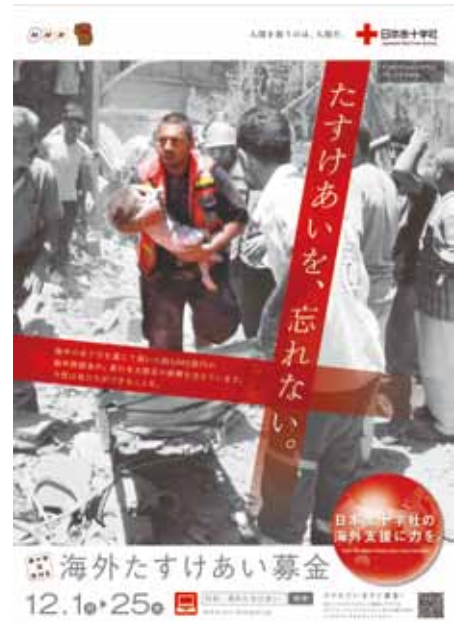
海外で発生した紛争や災害による被災者の支援、および開発途上国への長期的な支援を行うために、日本赤十字社が毎年 NHK と共同で実施している募金キャンペーンです。

「海外たすけあい」でどんな支援がされているの？

皆様からのご寄付は、世界に広がる赤十字のネットワークを通して、「紛争で苦しむ人への支援」、「災害で苦しむ人への支援」、「病気から身を守るための支援」の主に3つの分野を柱に、支援を必要とする人々のために活用しております。

例えば、紛争が激化しているシリアでは、すでに3万人以上が命を落としていると言われていています。赤十字は、シリア及び周辺国にスタッフや必要な支援物資などを送り、こうした人道ニーズへ対応するとともに、この武力衝突により大切な家族を失い心に深い傷を負った人々に対する心のケアも行っています。

詳しくは、日本赤十字社海外たすけあい特設サイト(<http://www.jrc-kaigai.jp/>)をご覧ください。



「NHK 海外たすけあい写真展」を開催します!!

千葉県支部では、上記キャンペーンに合わせて、下記のとおりイベントを開催いたします。

■日時：平成 26 年 12 月 5 日（金）～ 12 日（金）

■会場：NHK 千葉放送局 1階ロビー 入場無料

NHK 海外たすけあいキャンペーンに合わせ、現在に至るまでの国内外での赤十字活動を紹介した写真を展示します。皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください!

このお金で
こんなことが
実現します。

¥100 =
学習キット (鉛筆1本・ノート1冊)
3セット分

¥500 =
おかゆ
117杯分

¥1000 =
1日に必要な水 (生活水)
333人分

教えて
ハートラちゃん!

「義援金」と「海外救援金」の流れ

日本赤十字社では、国内で災害が起こった際には「義援金」、海外で災害が起こった際には「海外救援金」として、被災地のみなさまへお届けしています。

■義援金

国内で災害が発生した際にご協力いただく「義援金」は、被災県に設置される義援金配分委員会に全額送金され、同委員会で定める配分基準に従って被災者のみなさまに現金で届けられます。

皆さまからいただいた義援金



義援金配分委員会
(被災都道府県ごとに設置)

被災市町村

被災者の皆さま

■海外救援金

世界各国の赤十字社・赤新月社を通じて被災国に寄せられる「救援金」は、被災国の赤十字社が行う被災者活動に役立てられます。

皆さまからいただいた救援金



被災国の赤十字社
(被災国における被災者支援活動に充てられます。)

また、日本赤十字社が日頃から行う各事業には、みなさまからの社資や寄付が充てられています。

■活動資金

日本赤十字社の活動は、皆さまからいただく活動資金(社資や寄付)によって支えられています。

皆さまからの活動資金



災害救護活動などの各赤十字事業

受付手数料などは「義援金」「海外救援金」からは一切いただくかず、活動資金が充てられています。